

三菱UFJフィナンシャル・グループ
株主の皆さまへ

第4期第1四半期(平成20年4月1日~平成20年6月30日)



Quality for You 

MUFG

決算のポイント

- 第1四半期純利益は、連結粗利益の減少や与信関係費用の増加などを主因に、前年同四半期比1,000億円減少の511億円
- 海外貸出が引き続き順調に伸びた結果、貸出金は平成20年3月末比約1兆円増加。預金残高は若干減少するも、個人預金は増加
- 不良債権比率は、平成20年3月末比ほぼ横ばいの1.16%。連結自己資本比率は10.73%と、引き続き健全な財務基盤を維持

〈損益の状況〉

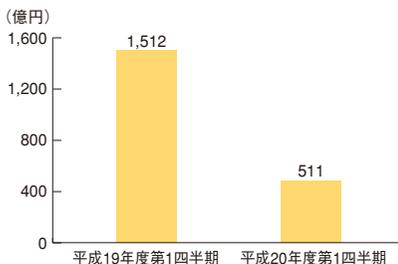
連結粗利益は、前年同四半期比647億円減少の8,012億円となりました。海外貸出が引き続き順調に伸びたこともあり、資金利益が堅調だった一方、証券収益や投信・デリバティブなどの販売収益が低水準であったことがその主な要因です。

営業費は、システム統合関連の経費発生を主因に、前年同四半期比126億円増加し、5,365億円となりました。その結果、連結業務純益は前年同四半期比774億円減少の2,647億円となりました。

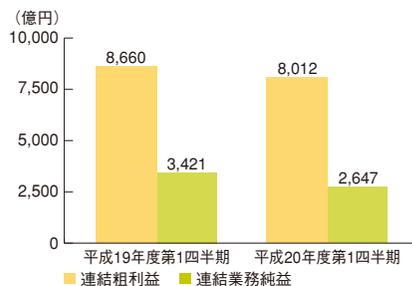
与信関係費用は、内外の景気減速・企業業績の悪化を反映した格付けの見直しなどにより、前年同四半期比577億円増加の1,417億円となりました。

以上の結果、連結四半期純利益は、前年同四半期比1,000億円減少の511億円となりました。

連結四半期純利益



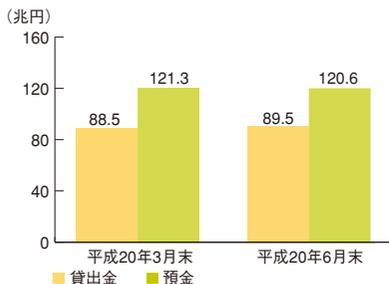
連結粗利益・連結業務純益



(注) 計数は、各々単位未満を切り捨てて表示しています。

従って、説明文中の増減数値とグラフ・表中に表示された計数を加減した場合の差異が一致しないことがあります。

貸出金・預金

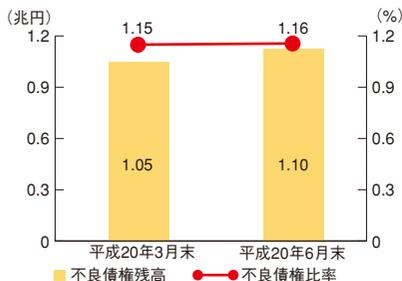


〈貸出金・預金の状況〉

貸出金は、海外貸出の増加を主因に、平成20年3月末比1.0兆円増加し、89.5兆円となりました。

預金は、個人預金が引き続き増加した一方、法人預金が減少したため、平成20年3月末比0.6兆円減少の120.6兆円となりました。

不良債権残高・比率

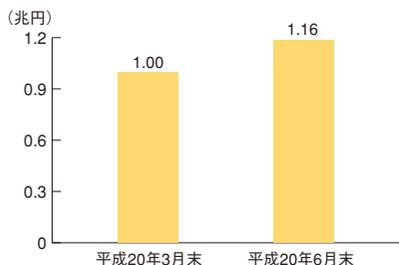


〈不良債権残高・比率の状況〉

不良債権比率は、平成20年3月末比ほぼ横ばいの1.16%となりました。不良債権残高は、景気減速・企業業績悪化に伴うお取引先企業の格付低下などにより、平成20年3月末比450億円増加の1.10兆円となりました*。

*三菱東京UFJ銀行と三菱UFJ信託銀行の単体合算

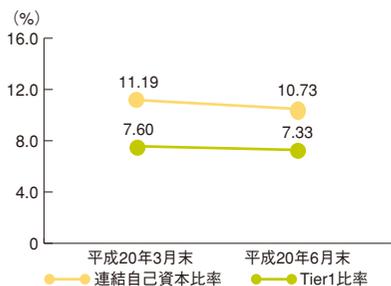
有価証券の含み損益



〈保有有価証券の状況〉

金利上昇の影響などから、債券の含み損益は平成20年3月末比悪化しましたが、株式の含み益が増加したことから、有価証券の含み益合計(その他有価証券評価差額)は、平成20年3月末比0.16兆円増加し、1.16兆円となりました。

連結自己資本比率



〈連結自己資本比率の状況〉

連結自己資本比率は、優先出資証券の償還、負債性資本調達減少などによる自己資本の減少と、海外貸出等の増加などによるリスクアセットの増加により、平成20年3月末比0.46ポイント低下し10.73%となりました。Tier1比率は0.26ポイント低下し7.33%となりました。

証券化商品等への投資状況

Q. 米国低所得者向け不動産貸出(サブプライムローン)関連商品をはじめとする証券化商品等への投資状況や損益への影響額について教えてください。

A. 平成20年6月末の証券化商品等への投資残高は、平成20年3月末比910億円増加の3.41兆円となりました。増加は主に円安によるもので、原通貨ベースの残高は減少しています。評価損は、合計で3,280億円と、平成20年3月末とほぼ同水準となりました。

平成20年度第1四半期の損益に対する影響額は、住宅ローン証券化商品の売却損を中心に、約160億円の損失となりました。

なお、証券化商品等の投資残高の80%はトリプルA格が占めるなど、引き続き質の高いポートフォリオを維持しています。

Q. 米連邦抵当金庫(ファニーメイ)や米連邦住宅貸付抵当公社(フレディマック)等の米国機関が発行する債券や株式の保有状況を教えてください。

A. 当社では、米連邦抵当金庫(ファニーメイ)や米連邦住宅貸付抵当公社(フレディマック)、米政府抵当金庫(ジニーメイ)が組成・保証する住宅ローン証券化商品(一般に「モーゲージ債」といわれています)を外貨資金運用の一環として保有しています。これらモーゲージ債の平成20年6月末時点の保有残高は合計で3.1兆円、評価損は510億円となっています。そのほか、上記3機関および米連邦住宅貸付銀行(フェデラルホームローンバンク)が自ら発行する債券も2,400億円保有しています。これら機関は設立の経緯等から政府支援機関(GSE: Government Sponsored Enterprises)と呼ばれていますが、米政府からの強い支援の姿勢も明確にされており、これら証券の安全性は高いものと考えています。

平成20年度第1四半期の業績について

(単位：億円)

損益の状況(連結)	平成19年度第1四半期 (平成19年4～6月)	平成20年度第1四半期 (平成20年4～6月)
連結粗利益(信託勘定償却前)	8,660	8,012
うち資金利益	4,657	4,700
うち役務取引等利益	2,659	2,392
営業費	5,239	5,365
連結業務純益 (一般貸倒引当金繰入・信託勘定償却前)	3,421	2,647
臨時損益(△は費用)	△ 633	△ 1,661
うち与信関係費用	△ 983	△ 1,414
うち株式等関係損益	417	△101
経常利益	2,930	968
特別損益	142	95
うち償却債権取立益	84	76
うち貸倒引当金戻入益	—	—
うち偶発損失引当金戻入益(与信関連)	—	13
法人税等十法人税等調整額	1,246	288
少数株主利益	313	263
四半期純利益	1,512	511

与信関係費用総額(△は費用) (信託勘定償却十一般貸倒引当金繰入十与信関係費用十 貸倒引当金戻入益十偶発損失引当金戻入益(与信関連))	△ 840	△ 1,417
---	-------	---------

資産・負債の状況(連結)	平成20年3月末	平成20年6月末
資産の部	1,929,931	1,940,725
うち貸出金	885,388	895,578
うち有価証券	408,516	408,880
負債の部	1,833,934	1,847,517
うち預金	1,213,073	1,206,543
純資産の部	95,997	93,208

連結自己資本比率の状況(第一基準)	平成20年3月末	平成20年6月末
自己資本比率	11.19%	10.73%
Tier1 比率	7.60%	7.33%
自己資本	122,158	118,792
Tier1	82,937	81,202
総所要自己資本額	87,260	88,527

モバイル専門銀行「じぶん銀行」誕生

三菱東京UFJ銀行とKDDI株式会社が共同で設立したモバイル専門銀行「じぶん銀行」が平成二十年七月にお客さま向けサービスを開始しました。

「じぶん銀行」では、今や日常生活に不可欠なツールである携帯電話をお客さまとの接点(チャネル)として、その特長を最大限に活用した「これまでにない金融サービス」を提供しています。例えば、お手持ちの



携帯電話の画面で、二十四時間三百六十五日、入出金明細の確認が可能なほか、残高推移をグラフで表示する機能^{*}、アドレス帳から相手先を選択して振込を行う機能^{*}などを搭載しています。

^{*} auをご利用のお客さま向けサービスです。また、お使いの機種によってご利用いただけないサービスがあります。

電子記録債権事業への参入

三菱東京UFJ銀行は、他の金融グループに先駆け、「電子記録債権」を用いた新たな金融サービス提供へ向けた準備を開始しました。

これは、企業が持つ手形や売掛金といった優良債権を電子データとして記録し、これら電子債権の決済手段の提供や買取を通じて、企業の資金決済の効率化や資金調達の円滑化に貢献しようというものです。また、金融機関の持つ貸付債権の流

通市場の一層の拡大にも資するものとして期待しています。

すでに、本年六月には、電子債権記録機関の設立準備を進めるための準備会社を立ち上げました。今後、電子記録債権を用いた新たな金融サービスの具体化に向け、基幹システムの構築などを進め、関係当局の許認可等を前提に、平成二十一年度のサービス提供開始を目標に、準備を進めていきます。

JEMCO

設立準備会社
「日本電子債権機構設立調査株式会社」ロゴマーク



緑の多いアルマティ市。市内からは雪を頂いた山々が望める

三菱東京UFJ銀行は、関係当局の認可を前提として、カザフスタン共和国のアルマティ市に駐在員事務所を設立する予定です。

化石燃料や鉱物などの資源が豊富な中央アジアは、近年、日系企業の関心が高まっている地域です。なかでも、カザフスタン共和国は、ウランの埋蔵量が世界第二位であり、電力会社向け燃料の開発など日系企業が参画する案件も増えています。

三菱東京UFJ銀行では、平成二十年五月にカザフスタン開発銀行と業務提携に関する覚書を締結するなど、同国との関係を強化してきましたが、今後、アルマティ駐在員事務所を設立することで、同国および中央アジアにおける情報収集力をさらに強化していきます。

アルマティ駐在員事務所設立予定

三菱UFJ投信、環境重視の投資信託を充実

財務的な観点からだけでなく、特に、社会的存在としての企業の在り方を評価して投資するSRI（社会的責任投資）。三菱UFJ投信では、SRI商品の開発を積極的に行っています。

最近では、日本を含む世界の企業のなかから、再生エネルギーや資源リサイクルなどの地球温暖化対策に関連する企業に投資する投資信託（平成二十年三月提供開始）や、環境問題の改善・解決をビジネス機会としてとらえ収益拡大および競争力向上に努める企業に投資する投資信託（同年六月提供開始）などを提供しています。

三菱UFJ投信では、今後もお客さまのニーズや社会の動向を反映した商品開発に取り組んでいきます。



社会とともに

就業体験プログラム「ジョブシャドウ」を実施

MUFJでは、ジュニア・アチーブメント日本、東京都教育委員会との協働により、「ジョブシャドウ」を、昨年引き続き今年も実施しました。「ジョブ

シャドウ」とは、世界最大の経済教育NPO団体「ジュニア・アチーブメント」が米国を中心にやってきた中学生・高校生向けの教育プログラムです。子どもが、仕事をしている人、「影」のように密着して行動し、仕事の楽しさや厳しさを体験するもので、将来の進路選択や

職業選択に役立てることを目的としています。

当日は、東京都教育委員会が公募した都立高校生総勢百十名が、三菱UFJファイナンシャル・グループ、三菱東京UFJ銀行、三菱UFJ信託銀行、三菱UFJ証券、三菱UFJニコス、三菱UFJリースの各本部で、従業員の電話応対や文書





作成の様子を見学したほか、会議への出席も体験しました。参加した生徒たちからは、「プログラムに参加して、判断することの責任の重さを感じた」「進路を考えるうえで勉強になった」など多くの感想が寄せられました。

「MUFG体験教室」を中部地区で開催

MUFGでは、児童擁護施設や母子生活支援施設の子どもたちをさまざまなイベントに招待する「MUFG体験教室」を、旧MTFG時代から毎年開催しています。

平成二十年五月には、愛知県犬山市で開催され、中部地区の約五十名の小学生以下の子どもたちが、MUFGグループの



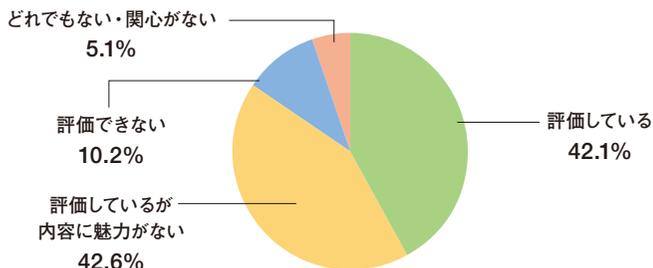
従業員から成るボランティアスタッフとともに、クッキーの手づくり体験や、動物園の見学を行いました。参加した子どもたちから、数多くの感謝の言葉をいただきました。



株主アンケート結果のご報告

「株主の皆さまへ第三期第3四半期（平成二十年三月発行）のアンケートにご協力いただき、誠にありがとうございました。アンケート結果をご報告するとともに、特に多くいただいたご意見をご紹介します。

株主優待制度の導入に対するご意見



個々の優待サービスに対するご評価	評価できる	評価できない	どちらでもない
定期預金の金利優遇	48.4%	34.2%	17.4%
外貨預金の為替手数料割引	32.8%	34.2%	33.0%
株式等売買委託手数料割引	37.9%	32.4%	29.7%
遺言信託取扱手数料割引	24.8%	33.6%	41.6%
オリジナル小物入れ贈呈	52.4%	23.4%	24.2%
ビジネスセミナー無料招待	34.2%	29.0%	36.8%

ご回答いただいた株主の皆さま／回答者数：15,394名（回答率3.7%）
男性：67%、女性：33%

皆さまから頂戴した主なご意見

優待制度導入、優待サービスの内容に対して

- ・株主優待制度を開始したことは評価している
- ・金利優遇や手数料割引の優遇条件をもっと改善してほしい
- ・「小物入れ」ではなく、食品や金券類、消耗品が望ましい

今後ご希望される優待サービスの内容

- ・オリジナルグッズの内容の充実（種類を増やすなど）
- ・大口保有株主にはさらに優遇してほしい
- ・銀行や信託銀行等と取引がなくても利用できるサービスの充実 など

平成21年1月に提供を開始する次回の優待サービス内容につきましては、皆さまからいただいたご意見も参考に、現在検討を進めています。決定しましたら、当社ホームページでご案内するほか、対象株主さまには、12月中をめどに株主優待制度関係書類をお送りする予定です。

三菱UFJ信託銀行証券代行部

株主の皆さまの身近な窓口である

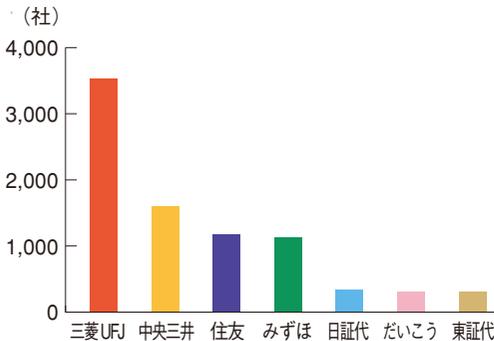
三菱UFJ信託銀行証券代行部の概要をご紹介します。

証券代行業務とは、株式の名義書換、株主名簿および実質株主名簿の作成、株主総会関係書類の封入・発送など、株式に関する複雑な事務手続きを、信託銀行が会社法上の株主名簿管理人として、発行会社に代わって行う業務です。

三菱UFJ信託銀行は、この分野で受託会社数約3,500社（うち上場会社約1,600社）と、業界トップのシェアです。

また、豊富な経験と実績に基づき、株式実務に関するコンサルティングを行っているほか、敵対的買収防衛コンサルティング、実質株主判明調査、株主さま向けコミュニケーション（SR）戦略策定支援など、企業のお客さまの課題解決をお手伝いしています。

証券代行受託実績（平成20年3月末現在）



信託協会公表ベース



名義書換手続き時の株券チェック作業



議決権行使書集計作業

三菱UFJ信託銀行証券代行部に関するアンケートはがきを同封しております。大変お手数ではございますが、ご回答をご記入のうえ、ご返送くださいますようお願い申し上げます。

グループメッセージについて

MUFGグループは「Quality for You」を
グループメッセージとして、
お客さまとのさまざまな
コミュニケーションの場で展開していきます。

Quality for You

このメッセージには、
「『質』の高いサービスのご提供を通じて、
お客さま一人ひとりの生活や一社一社の事業の
『質』の向上をお手伝いしたい。
そして、こうした活動を通じて
地域・社会の発展に貢献していきたい」
という私たちの想いを込めています。

株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ

〒100-8330 東京都千代田区丸の内2-7-1
電話03(3240)8111(代表)
URL:<http://www.mufig.jp/>

株式に関するお手続きについてご不明な点などがございましたら、
以下の株主名簿管理人の連絡先にお問い合わせください。
三菱UFJ信託銀行株式会社証券代行部テレホンセンター
Tel:0120-232-711(通話料無料)
(受付時間 土・日・祝祭日を除く9:00~17:00)